

飲料用紙パック 3R 推進のための自主行動計画

飲料用紙容器リサイクル協議会

はじめに

飲料用紙容器リサイクル協議会においては、飲料用紙パックの 3R を推進し、以て循環型社会の形成に資するため、これまで各種の活動を行ってきたところである。

こうした中、今般の容器包装リサイクル法見直しに係る審議において、容器包装に係るリサイクル八団体は「容器包装リサイクル法の目的達成への提言」と題する提言を行ない、事業者による 3R 推進に向けた自主行動計画の策定、及び主体間の連携に資する取り組みを実行する決意を表明したところである。

そこで、ここに飲料用紙パックの 3R 推進のための自主行動計画を定め、公表する。

飲料用紙パック関連業界においては、他の主体との連携・協力も得ながら取り組みを推進し、環境負荷・社会コストの低減を図り、環境と経済の両立に資する所存である。

1. 容器包装の 3R 推進に係る自主行動計画

1. 1 3R の推進の現状

当協議会では、飲料用紙パックの軽量化、再資源化運動への協力、回収率の向上、環境問題に関する知識の普及、各種の調査、研究等を行い、積極的に 3R 推進を図ってきた。

引き続き、取り組みを継続していく。

1. 2 3R 推進に係る行動計画

飲料用紙パックの 3R を推進するため、以下の自主的な取り組みを実施する。目標年次は 2010 年度とし、取り組みの結果については毎年度検証し、公表する。

(1) リデュースの推進

- ・新たな技術開発等を行い、2004 年度実績比で 1% 軽量化する。

(参考実績)

1987 年～2002 年の間で約 5% の軽量化を実現している。

(2) リサイクルの推進

① 回収率目標：飲料用紙パック回収率 50% 以上を達成する。

- ・次の算定式による回収率を指標に推進する。

回収率 = 国内紙パック回収量 (産業損紙・古紙を含む) / 紙パック原紙使用量

- ・回収率は、1995 年度より実施している飲料用紙パックの回収実態基本調査結果により算出する。

- ・回収率の実績は、1994年度 19.9%から 2004年度 35.5%と着実に向上しており、従来の目標であった 2005年度 35%を達成した。

②つぶし易さ・汚れの付着しにくさ・洗い易さ

1) 回収ルールの普及啓発を推進する。

- ・洗って、開き、乾かし、きれいなものだけを回収するルールの普及啓発活動を継続して行う。

2) 環境キャンペーンを実施する。

- ・1000ml 紙パック商品へ業界統一の環境メッセージ広告を掲載する環境キャンペーンを年間 2 回実施する。(環境月間 6 月、3 R 月間 10 月)
- ・2004 年 10 月から実施。2005 年は、6 月 15 社、約 1,500 万個/月、10 月 20 社、約 1,300 万個/月に掲載した。

③自主回収率、集団回収率の向上

1) 回収ボックス拠点 10,000 ヶ所拡大活動を継続実施する。

- ・2001 年から全国牛乳パックの再利用を考える連絡会と連携して、全国の自治体、福祉作業所、学校等に、回収ボックスを無償提供し、回収拠点のフォローを実施している。
- ・回収ボックスの申し込みは、自治体からが最も多く、次いで福祉作業所、学校の順となっており、学校、保育所、幼稚園、自治体庁舎内、公民館等公的施設等に設置されている。
- ・回収ボックスによる拠点拡大は、消費者に対する啓発効果が高く、市町村回収や店頭回収などにおいても回収促進に寄与している。
- ・2006 年 1 月末累計で 6,910 個の回収ボックスを提供した。

(3) その他

①識別表示実施率を 98%以上維持する。

- ・2000 年 5 月に自主的に制定した飲料用紙パックリサイクル識別表示の実施率は、2003 年に生産ベースで 98.7%に向上した。

2. 主体間の連携に資するための行動計画

2. 1 主体間の連携に関する取り組みの現状

①消費者、自治体等に対する啓発活動

- 1) 紙パックリサイクル啓発用チラシ、ポスター、ビデオ等の配布及びホームページを拡充して情報提供を実施している。ホームページアクセス数：月間平均 7 万件。(2004 年度)。
- 2) 「牛乳パックリサイクルライブラリー(啓発用小冊子 No1~No16)」を、1993 年より継続して配布している。小冊子配布数：24,000 部(2004 年度)
- 3) 紙パックリサイクル年次報告書発行。
 - ・2004 年 6 月から紙パックリサイクル促進活動結果を年次報告書に取りまとめて公表している。

②小中学生に対する啓発活動。

- 1) 小中学生に対するリサイクルや環境問題の啓発を促進する為、子供向け環境教育用ホームページ「牛乳パックン探検隊」を開設した。(2005年4月)
- 2) 牛乳紙パックで遊ぶ学ぶコンクール協賛(2003年から後援、2005年から協賛)

③自治体に対する啓発活動

- 1) 自治体の公共施設向けに、紙パックリサイクル啓発用の展示台、紙パックリサイクル製品の見本、回収ボックス等をセットにした「メッセージBOXキット」を無償配布している。(2005年7月より2006年2月までに270セットを配布)
- 2) 1993年から継続的にポスターや小冊子等の紙パックリサイクル啓発用資料を提供している。(小冊子配布数：年間7~8千部)

④関係事業者に対する普及啓発活動促進。

- 1) 紙パックリサイクル製品の購入拡大活動を推進する。
- 2) 事業者における紙パック再資源化量を向上する。
- 3) 事業者における回収ボックス拠点拡大を促進する。
- 4) 学校給食用牛乳パックリサイクル促進事業を継続実施する。
 - ・1998年度から北海道、京都府、埼玉県、静岡県等で学校に対してリサイクルツールの支援事業を継続して実施している。

⑤各主体との連携。

- 1) 関係者との意見交換会開催
 - ・2000年度から、行政、全国牛乳パックの再利用を考える連絡会、関係事業者団体、流通事業者、古紙回収事業者、再生紙製造事業者等と共に「飲料用紙パックのリサイクル促進意見交換会」を定期に開催してリサイクル促進のための意見交換及び促進活動結果のフォローアップを行っている。
 - ・今後も、意見交換会を定期的実施し、飲料用紙パックリサイクル促進の為の諸課題について協議すると共に各主体との連携強化を促進する。

2. 2 主体間の連携に資するための行動計画

飲料用紙パックの3R推進に係る自主的な取り組みを進めるとともに、市民(消費者)、国・地方公共団体等との主体間の連携に資するため、目標年次を2010年度として以下の取り組みを実施する。

(1) 情報提供・普及活動

- ①市民、自治体、関係事業者等が参加した地域会議及び消費者、市民団体等を対象としたリサイクル講習会を年間5回以上開催する。
 - ・各主体が情報を共有して、責任を持ってリサイクル促進の問題に取り組んでいく為、全国各地で、市民、自治体、関係事業者、乳業メーカー等が参加した地域会議を全国牛乳パックの再利用を考える連絡会と連携して実施する。(1998年から全国29地域で実施した。)
 - ・消費者及び市民団体等を対象としたリサイクルの意義や具体的な方法についての講習

会を全国牛乳パックの再利用を考える連絡会と連携して実施する。(2005年度は、5箇所で実施した。)

②各主体の枠組みを超えた地域独自の効率的な回収システムの構築及び普及拡大を促進する。

・2005年7月から全国牛乳パックの再利用を考える連絡会と連携して西播地域において回収率アップのための集中プロジェクトを実施している。

③環境イベントへの出展協力及び充実化を図る。

1) 林野庁主催森林の市出展(1993年から継続して出展。)

2) エコ・プロダクツ展出展(2004年から継続して出展。)

・牛乳パックを利用した紙漉きやおもちゃ作りの体験を通じて、飲料用紙パックリサイクルの啓発を行っている。

④その他、各主体との連携に資するため以下の取組みを実施する。

・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO・学校等主催のイベントへの協賛協力

・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO等の研究会への参加協力

・3R推進・普及啓発のための共同ポスターなどの作成

(2) 調査・研究活動

①飲料用紙パック回収実態基本調査

・1994年度から継続している飲料用紙パック回収実態基本調査を実施する。

・飲料用紙パックの生産量、販売量、回収ルートごとの回収量、売却単価、集団回収、店頭回収、市民グループ回収等の回収実態および課題、再生紙メーカー受け入れ量、リサイクル量、リサイクル製品生産割合等、リサイクル促進に資するための調査を実施する。

・市民グループ、福祉作業所等、未把握分の回収ルートにおける実態調査を実施する。

・全国製紙原料商工組合連合会の協力を得て、問屋ルートなど飲料用紙パックの回収ルート実態調査を実施する。

②飲料用紙パックLCA調査研究

・資源の節約及び環境負荷の削減に資するため、飲料用紙パックのLCA調査研究を実施する。(2002年度より継続実施)

・飲料用紙パックに係る内外の未把握LCIデータの収集及び取得データの精査を実施する。

(3) 他団体と共同実施する活動

容器包装リサイクル八団体等で構成する「3R推進団体連絡会」を通じ、以下を実施する。

・容器包装廃棄物の3R推進・普及啓発のためのフォーラムの開催

・容器包装廃棄物の3R推進・普及啓発のためのセミナーの開催

・各団体ホームページのリンク化・共通ページの作成などによる情報提供の拡大

・エコ・プロダクツ展への共同出展

飲料用紙容器リサイクル協議会の概要

設立 平成9年3月18日

目的 本協議会は会員相互の協調のもとに、廃棄飲料用紙容器（アルミニウムを利用しているものを除く）についてリサイクルを促進することを目的とする。

事業内容

- ①使用済紙容器の再商品化に関する相談、斡旋及び引取り
容器包装リサイクル法の市町村分別収集計画に基づき収集された飲料用紙容器（アルミニウムを利用しているものを除く）で、分別基準及び保管施設基準を満たしたものについては、有償または無償で譲渡できない事態が発生した場合、その当該飲料容器の再商品化するための相談、斡旋および引取りの用意を行う。
- ②会員相互の情報交換
- ③その他本協議会の目的を達成するために必要な事項

- 構成団体
- ①全国牛乳容器環境協議会
 - ②(社)全国清涼飲料工業会
 - ③(社)日本果汁協会
 - ④(社)全国はっ酵乳乳酸菌飲料協会
 - ⑤酒類紙製容器包装リサイクル連絡会
 - ⑥印刷工業会液体カートン部会

事務所

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-14-19 乳業会館4階
TEL 03(3264)3903
FAX 03(3261)9176

役員

理事長	小野田 顯正	全国牛乳容器環境協議会会長
専務理事	光谷 澄	全国牛乳容器環境協議会常務理事
事務局長	田中 龍夫	全国牛乳容器環境協議会事務局長

全国牛乳容器環境協議会の概要

設 立 平成4年8月31日

事業内容 ①環境保全、再資源化など環境問題の啓発活動への協力
②牛乳等容器の環境問題に関する知識の普及
③牛乳等の紙容器再資源化運動への協力
④牛乳等容器の環境問題に関する各種調査、研究及びその支援
⑤その他必要な事業

主な活動 ①牛乳等紙容器の普及啓発情報提供（消費者、市町村、学校等）
②牛乳等の紙容器再資源化運動への協力（市民団体）
③紙容器、使用済み紙容器の再資源化等の技術調査
国内外視察（リサイクル政策、森林管理、再生紙メーカー）、
海外文献紹介
④飲料用紙容器のリサイクルの現状と動向に関する実態調査
⑤行政、関係する他の団体との連携
⑥会員への情報提供

会 員 乳業者（159）、紙容器メーカー（7）、
関係団体（（社）日本乳業協会、（社）日本酪農乳業協会、
（社）全国農協乳業協会、全国乳業協同組合連合会）
賛助会員 再生紙メーカー、古紙回収事業者（9）

事務所 〒102-0073
東京都千代田区九段北1-14-19 乳業会館4階
TEL 03(3264)3903
FAX 03(3261)9176

役員

会長	小野田 顯正	森永乳業(株) 専務取締役
副会長	吉岡 幸一	明治乳業(株) 常務取締役
副会長	落合 徹	日本紙パック(株) 常務取締役
副会長	鈴木 靖浩	日本テトラパック(株) マーケティング・コミュニケーション・環境 担当 取締役
常務理事	光谷 澄	(社)日本乳業協会常務理事
事務局長	田中 龍夫	(社)日本乳業協会環境対策室長